

IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チーム

第26回会合

2022年10月24日

【加藤】 では、参加される方は徐々に参加されるという前提でスタートさせていただきたいと思います。

いよいよ、2022年IGFの日本での秋イベントの開催の週となりましたので、その辺の打合せなりに時間を割かしていただく必要があると思いますので、始めさせていただきます。よろしくをお願いします。

ということで、アジェンダを順に見ていきますと、総務省様から、今、2023年ホストとしての現状報告というのは、リーダーさんがいらっしゃらないと、総務省さんの御参加でどなたか、一部でも結構ですけれども、御報告いただく方いらっしゃいますでしょうか。

【森下】 お世話になっております。データ通信課の森下です。申し訳ございません、ご依頼の件は、参事官室が主に担当しており、当課から何か申し上げられることはございません。そのため、政府からの報告は後ろに回していただけますと幸いです。

【加藤】 もちろん結構ですけど、何かあればと思ったので。

【森下】 有り難うございます。申し訳ございませんが、当課で把握している内容はございません。

【加藤】 分かりました。ありがとうございます。

【山崎】 山崎ですけれども、高野さんが、今、入られています。

【加藤】 そうですか。

【山崎】 国際戦略局の高野さんでしたか。

【加藤】 そうですね。

【総務省加藤】 すみません、総務省の高野のアカウントで入っていますが、加藤です。お疲れさまです。飯田はちょっと遅れておまして、そのような状況ですので、一旦、報告しておきます。

【加藤】 加藤様のほうから何かもし事前に伺うことがあればですけれども、飯田様、遅れて参加というイメージでしょうか。

【総務省加藤】 そうですね、ちょっと何時頃になるのかまだ見えてないんですけども、遅れて参加の予定ですが。

すみません、ちょっと途中から入ったんであれですけど、この政府の状況として。

【加藤】　　そうです。まず、アジェンダの2023年ホストとしての検討状況の御報告を、本来であれば飯田様からお願いするつもりだったんですが、もしくは、加藤様のほうから教えていただくことがあれば、特に会場が決まったとか、その辺についてまだ。

【総務省加藤】　その件については、なるべく皆様に早くお知らせしたいなと思っているんですけども、ちょっとすみません、今、最後のプロセス中で、もう少しでお知らせできるかと思われますので。いずれにしても、公表時期がちょっと迫っているということでお伝えしておきます。

【加藤】　　場所はほぼ絞られてきているというイメージなんですね。

【総務省加藤】　はい。

【加藤】　　質問じゃないんですけども、そういうことですね。分かりました。

あと、エチオピアに向けて何か政府としてやられていることとか、ごめんなさい、日本政府として23年に向けてやられていることとか、ほかに何うことございますか。

【総務省加藤】　まさに今年のエチオピアの会合、こちらで前々から少し話題に出ておりましたけども、ブースを出す予定でして、ちょっと今、先ほどの開催地の話とも少し関連はするんですけども、そのブースで、開催都市、こういうところだよということですか、少しそのアピールも含めてちょっとしたいなとは思っております、ちょっとその準備を内々に進めているというところでございます。

【加藤】　　分かりました。ありがとうございます。

大体、それぐらいのところが概要ということでよろしいでしょうかね。

【総務省加藤】　そうですね。

【加藤】　　もし後で飯田様、参加されましたら、追加で何かあればお願いします。

【総務省加藤】　分かりました。共有しておきます。

【加藤】　　加藤様、ありがとうございました。

今、河内様の顔を拝見したんですけども、次にMAGの御報告ということで、河内さんのほうから何か、最近のアップデートございますでしょうか。

【河内】　　すみません。一応、今、メインセッションの案を、スピーカーとかを最後の詰めで皆さんで、私、すみません、ちゃんと関わってないんですけど、皆さん、一生懸命やっているような感じです。最後の、エチオピアの前の最後のMAGの会議が11月1日の日の夜中、日本時間の夜中にある予定で、それまでには全てのセッションとかスピーカーとか、そういうものも決まっているといいと思うみたいなメールがChengetaiから来ています。

あとは、エチオピアの会議も、何かちょっと場所、セキュリティとか、いろんな面で不安が残る、残っている人は結構多いみたいで、場所は変えられないのかみたいなリクエストがいっぱい、これはMAGのチェアのところに何通かそういうリクエストが来ているみたいな

ことをチェアが言っていて、ただ、それはちょっともう、それは絶対不可能なことなので、全部準備も、現地のエチオピアの政府関係者をはじめとしてみんなで一生懸命やっているの
で大丈夫なはずだからというふうなメールが来ていました。

【加藤】 ありがとうございます。何でしょうか。

【河内】 いや、この場で伺うのもあれなんですけど、日本政府の方、現地に行かれる
るんですよね。総務省の方々、先ほどの加藤さんとか。たしかレジストレーション、今日、
見ていたら、お名前があった、オンサイトでお名前を見つけた感じがするんですけど。

【総務省加藤】 すみません、総務省、加藤です。

総務省側から、ちょっとまだ人数未定ですけれども、数名、出張予定しております。

以上です。

【河内】 この場であれなんで、行くかどうかという問題なんですけど、行く準備、
行く前にやっていくべきこととか、その辺をちょっと御相談できるといいかなと思ったんで
すけど、また別途で、ここじゃなくていいです。

【加藤】 もし、この場を少し使っていただいて、概要があればお話しいただくと、ひ
ょっとすると、この中で参加される方がいらっしゃるの、そういう方にもお声がけだけ
でもやっていただくといいかもしれないですね。場合によって、日本からの参加の方が現地
で一度集まる機会があったりとかというの、過去もいろいろそういうこともありましたの
で。

【河内】 ブースを出されるということなので、そこに行けば会えるかなという感じが
するんですけど。いや、予防注射とか何か、打たれましたかね。コロナじゃなくて。そうい
うところなんですよ。

【加藤】 イエローフィーバー（黄熱病）。

【河内】 そうです。

ホテルは、会場の周りに幾つかそれなりの、アメリカ系のチェーンのホテルとかがあるので、
取れば何とかなるのかなという感じはするんですけど。

【前村】 前村ですが、私、現地参加しようとしていまして、絶賛大準備中なんです
よ。それで、予防接種は、先週の金曜日に始めて、2回目を4週明けて11月の18日に接種し
ようとしています。私、黄熱は持っていたんですけども、A型、B型肝炎と髄膜炎と破傷風
と腸チフスを、全部で5種ですけど打っていかうと思います。

【河内】 やっぱりそんなにやるべきですか。

【前村】 これ、病院の先生に予約をして、赴いて、どんなもんですかねという相談を
したら、4つというのはいい選択なんじゃないのというような感じのことを言われました。
この4つというのは、検疫所のお勧めはこの4つで、外務省は腸チフスが入って5つというこ

とがどうもリコメンドされているので、それくらいは打つということかなと思っています。ちなみには、それで6万ぐらいかかります。

【河内】 お金より、期間も、もう今からで間に合うのかって感じですよ。

【前村】 今すぐに予約し始めたら黄熱まで収まると思います。

【河内】 そうなんですね。そんなに注射ばかり打つのもどうだろうって。最近、コロナの予防接種の話もありまして。

【前村】 そうなんです。さすがに、4本針打たれて、もう一つ、血液検査して、「黄熱の抗体がちゃんとあるかって検査をしません？」って言われて、「そうですね」って言ってやったんですけど、5つ注射を打たれたら、もうちょっと嫌になりますね。あれ、5つは限界ですね。

【河内】 ちょっとそっちのほう体が悪いんじゃないかと思っちゃいます。

【前村】 確実に精神には悪いですね。

【河内】 分かりました。すみません、こんなところで。

【加藤】 いえ、そういう情報と、あと、どこにお泊まりになるかって、多分、事前に情報共有をされたほうがいいんじゃないでしょうかね。移動のところとかが一番危険があり得るので、会場までの移動とか、その辺も情報交換されたほうがいいと思います。

【河内】 ちょっと別途にしましょうか。

【加藤】 夜暗くなってからレストランに行くのも非常に危険だとか、そういう危険のお話も、多分、MAGのチェアのところには行っているのかなというふうに、病気に加えてですね。

【河内】 もうホテルと会場以外のところには、絶対どこへも行くつもりはないんですけど。というわけで、ちょっと、別途また。

【前村】 情報交換しましょう。

【加藤】 では、聞いていらっしゃる方で、行くぞとっていらっしゃる方は、河内さん、前村さんと調整して、少なくとも必要な情報交換をしていただくということをお願いしたいと思います。ありがとうございます。

河内さん、あと、ほか、MAGから、エチオピアがこんなことが変わりそうだとか、進行しているとかという情報ほかにはございませんか。

【河内】 ないですね。あまりなくて、ホームページも、ローカルの、現地のホームページも大したこと書いてないとか。ビザの問題もあるんですよ。ビザも考えなきゃいけないんですよ。

【前村】　　そうですね。ビザは、レジストをすると、ビザ発給用のドキュメンテーションを投げってくれることになっていて、今、私は待っているところですね。数日待っていますね。1週間までたっていないと思うんですけど。

【河内】　　それで、ちらっと読んだら、国連の、だから、IGF自体の登録をした後にローカルの何かを申請しろみたいを書いてあったような気がします。

【前村】　　そんな感じです。

【河内】　　ですよ。

【前村】　　はい。

【河内】　　分かりました。すみません。

そんな感じです。

【加藤】　　分かりました。ぜひ御準備、よろしくお願ひしたいと思います。

ほかにございますか。あと、河内さん、それから、先ほどの加藤様への質問とか、ございますか。

ありがとうございました。

今日のメインの次に、秋イベントの状況について移りたいと思います。

上村さん、いらっしゃいますよね。

【上村】　　上村です。

【加藤】　　よろしくお願ひします。

【上村】　　プログラム委員会、先週、先々週と2週連続で開催をしまして、もう最後の最後ということで、あまり細かい報告というのはありませんが、せっかくなので、山崎さん、開催の案内のページを見ていただくのがよいかもしいったんなんですけど、突然思いついちゃったんですけどよろしいですか。それです。

この開催趣旨ということで、先週、第2回の、第2弾の案内を送ったわけですけども、こんな感じになっていまして、開催概要を見ていただければと思います。Day 0が26日、あさって水曜日の3時から、VTuberのバーチャル美少女ねむさんに登壇いただいて、今までとは少し違った話題を絡めてインターネットガバナンスの入り口を示そうと思っております。

それから、Day1が、ごめんなさい、プログラムの話をしちゃいました。失礼しました。

2日目ですが、開会からオープニングセッション、テーマセッション1、2、閉会という感じになっています。2日目が、2日目の事務的な開会とテーマセッション3、4、それから特別セッションという内容になっております。

それで、これ、下にあれでしたっけ、詳細が、山崎さん、あるんでしたっけ。詳細のページを御覧いただきますと、もう少し詳しく何をするかということが出ています。特に、ねむ

さんとのイベントについては細かいのがありますが、全会一致ということでは必ずしもなかったんですけど、事前の質問や情報交換について、情報発信について、#IGF2022という、御本尊を恐れぬハッシュタグを使うということになりました。よろしくお願いします。皆さんも、ぜひ当日に関することをTwitterを使って発信なさる場合には、このハッシュタグと、場合によってはジャパンとか日本とかつけても構わないと思いますが、こちらを御利用いただければと思います。

それから、初日です。27日木曜日のほうは、2つ、セッションですけど、オープニングセッション、これ、空になっているのは、空じゃない、オープニングセッションいいですね。これについてはまたお話をします。このセッション、4件については、応募時に出していただいた提案、概要をほぼ使って、少し細かいことを追記したのと、それから、確定している登壇者について載せています。もうメーリングリストで流れているものですけど、改めてこういう内容になっているということで御覧いただければと思います。

それで、準備について何点かありまして、一つは、これ、ここには何も書いてなかったですね。失礼しました。挨拶を、IGF事務局と、それから、総務省からいただくことになりました。山崎さん、ビデオメッセージって、これ、ちらっと映したりすること、できるんですけど、もしできたら。

【山崎】 できますよ。

【上村】 ちょっとざっと今、状況だけ説明して、最初の20秒ぐらい見てみたいと思います。Chengetai Masango氏よりビデオメッセージをいただきました。それから、総務省から、国際戦略局長の田原康生さんです。ちょっと切り方、間違えました。田原康生様より御挨拶をいただくということになりました。オンラインで御挨拶いただけるということです。それから、村井純慶應義塾大学教授より、遠隔で登壇をいただいて、挨拶というか、次のオープニングセッションに係る内容のメッセージをいただくような流れに、今、なっております。というのが、御報告の1点目です。

もう一つは、当日のオンラインモデレーターか司会進行のどちらかのスタッフをしてくださる方を引き続きまだ募集しておりますので、この中でやってもいいという方がいらっしゃればお申し出いただければと思います。ちょっと会議の前に具体的な名前が入っているところもあったんですけど、御本人の意向を聞いてないなと思ったので慌てて消しておりますが、名前が入っているところは確定と思ってよいはずのところですよ。

そんなところですかね。というのが準備状況です。

そうしたら、Chengetaiさんからいただいたビデオメッセージをちらっと、ちら見してみたいと思います。すみません、山崎さん、使い立てしてしまいました。私の手元の画面には映っているんですけど。こんな感じでいただいております。

(ビデオメッセージ上映)

【上村】 ありがとうございます。字幕もつけて、間に合って、つけていただいているようで、どうもお疲れさまでした。すっかりその件、お任せしっぱなしで申し訳ありませんでした。ありがとうございます。こんな感じでいただきます。というのが準備状況です。

それで、あと、申込者数です。ちょっと今、ちらっと映っていましたが、現地が16で遠隔が120ですか。ねむさんの効果があったのかもしれませんが、Day 1、Day 2にもそのまま残っていただけるように、Day 0で私がアピールしなければならないのだと思いますので、そこは何とかしたいと思います。

ざっと流れはこんなところですが、ちょっと懸案のオープニングセッションです。「Terms and Conditions May Apply」という映画があって、割と今のインターネットガバナンスというか、インターネットにおける市民自由などを考える上で大変興味深い素材になるということで、それを使ったセッションをと思っていたんですけど、ちょっと立石さんが、この案件、申し出ていらっしゃって、立石さんにお任せをしているものの、ちょっと状況がよく分からない感じになっておりまして、ちょっと映画の使い方を見直そうと思っています。もうプログラム委員の皆様にも相談もまだしていない状態ですけど、もうこれしかないだろうということで、私が考えているのは、村井先生が開会から30分ぐらい時間を取ってくださるという話になっているようなので、開会の挨拶があって、その後、そのままオープニングセッションに入るわけですけれども、30分いていただける間は、村井先生と少し、村井先生が考える、挨拶をいただくことと併せて、村井先生が考える、今、改めて問われるインターネットの自由についてお考えを聞いて、それを基に、オンサイト、オンラインで参加している皆さんと少し意見交換をしようということを考えています。

それで、その他の論点もあると思いますが、残り30分ぐらいの時間を、このビデオじゃないか、映画の字幕版が間に合うのであればその上映に充てるという感じにしてみようと思っています。もちろん会場に参加されている方は映画をただ見るということになるでしょうけれど、会場にいる人同士でそのまま意見交換をするということもあるかもしれません。オンライン参加の方は映画のクリップを見ていただくというような、そんな、当初考えていたことと比べると少し変則的ですが、そんな内容にせざるを得ないかなと思っています。

一応、今、私がもうこれしかないだろうと思うということで案を示しましたが、今日、活発化チームの会合が終わりましたら、続いてそのまま、10.5回かな、のプログラム委員会の会合を持ちたいと思いますので、その場で皆さんの御意見をいただいて、最終的な決定ということにしたいと思っています。

ということで、首尾よく進んできた部分と、必ずしもそうでないと部分と混ざっておりますけれども、こんな感じで、水木金の2日半というのか、1日半というのか、会合を開催する運びとなっております。よろしくお願ひします。

それから、もう一つ、予定では直前のアナウンスをしようということも考えていたんですけど、直前というと今日かあしたのタイミングしかないんですけど、一応、第3弾アナウンスというのを考えています。例えば報道系とか、そういったところが、直前でも来るときは来るし、来ないときは来ないということでしょうから、そういうところにもアナウンスしようというふうに考えております。

取りあえず、私からの報告と提案は以上です。

【加藤】 上村さん、ありがとうございます。

御質問とか御意見ございますか。特にないでしょうか。

引き続き、今言われた、若干……。本田さん、お願いします。

【本田】 本田です。

ジャスト・アン・アイデアなんですけど、報道向けの広報とかという話があったんですけど、特段ノウハウは私は持ってないんですが、JPNICさんとかはどうしているんですかね。何かそういう、インターネット系の、何かそういう記者クラブみたいなところへ投げ込んだりすることもありたりするんですかね。

【山崎】 山崎ですけど、プログラム委員会では、お話があったとおり、配布先のリストの中にオンライン系のメディアがいっぱい入っていて、そこに投げています。なので、例えば日経BPとかは記者が申し込んでいます。だから、それはかなりもう実現していると思っています。

【本田】 オンライン系もそうなんですけど、いわゆる旧来のメディアですよ。新聞だのテレビだの、そういういわゆる僕らがイメージするような記者クラブみたいなのに、いわゆるネットメディアと言われる、別にばかにしているわけではないんですが、そういうところじゃなくて、いわゆるその既存のメディア媒体、そういうところには、特にそのリストの中に載っているもの以外はないと、アプローチするところはない。

【山崎】 そのリスト中にテレビ東京があったんですけど、どう見てもリリースを送る先ではないので、ちょっと投げ込みを諦めた経緯があります。日経とかはひょっとしたら来るのかもしれませんが、ちょっとやってみないと分からないという状況ですね。ほかのメディアは、食いついてくるかは、それもやってみないか分からないという状況です。

【本田】 今後の参考として、例えばNHKも結構そういうネット系のニュースについては出してきているし、毎日新聞なんかもそういう、毎日新聞、朝日新聞あたりもそういう担当というか、ネット系の、外交も含めた形の、ネット外交というか、そういった部分も書いている記者がいるようですので、今後ですね。今週はもう間に合わないとしても、今後、そういったメディアとの関係づくりというのも考えていく課題かなと思っているところです。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。

ほかの方。今の点は、プログラム委員会でも、一応、最終確認して、3回目のアナウンスを送付していただけるということですね。

【上村】 山崎さん、もし差し支えなければ案内先のリストを映してみてもどうでしょう。ちなみに、案内先については、プログラム委員会の中でこういうところに送ってはどうかというところを集めました。ですから、プログラム委員会のコレクティブな知恵が、今、この状況だということですね。本田さんの御指摘になったような送り先も期待されるのかもしれませんが、山崎さんにやっておいてというだけで実現するものでもないの、我々の今ある知恵を出すところまでであるということだと思います。ということで、でも、割と既にいろんなところに投げかけていますので、前回までに比べると、前回までというか、前回とかこれまでのものに比べると、相当手広くやっているような印象を私は持ちました。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。

【本田】 今言ったことの趣旨は、要するに、JPNICとかJAIPAも入っているわけだし、もしくは総務省の後援も、今後、次回やるときに取れるとすれば、そういったところのチャンネルも活用して広報などに努めていけるのではという、そういう将来的な展望も含めた意見となりますので、そういうふうに御承知おきください。

【加藤】 ありがとうございます。

あと、プログラム委員会、上村さんへの御意見、御質問はほかにございますか。

もしなければ、もうほぼ完成度が高い状態にあるということで、引き続き、今日、後でも結構ですけども、コメントがあればお願いします。

次の議題に移らせていただきます。協議会（仮称）についてということで、前村さん、よろしくをお願いします。

【前村】 前村でございます。

協議会と言っていたものなんですけども、いろいろ、協議会という名前が、仮称としていたんですけども、協議会という少し、業界の中で一つの意見をつくるための、多少、意見が違うものを整えていくようなイメージがちょっと協議会というものに想起されるということで、タスクフォースなんていう言葉にしようかなというふうなことを言いながらやっております。それで、今時点に至るまで、設立のときに候補でありましたIAJapanさん、JAIPAさん、JPNIC、WIDEプロジェクト、あと、経団連さんがこれ、設立して前に進めるということにしようというふうに意識がありましたので、ちょっとお出ししているというのか、お伝えしている情報が若干足らなかつたのでということなんだろうと思うんですけども、その辺、すり合わせた結果、意識が合いましたので、今、設立準備に入っているところでもあります。

それで、今やっていることは、まず何をやるかということ、IGF2023の挙行をする、ローカルホストとして挙行する日本政府、総務省さんに対して、その対応方針などを具申するというふうなことで、話し合いをしてこういうふうなことをアドバイスしようというようなことを考えるというふうな団体なわけなんですけども、それに向けた任意団体としてつくりましょうと。それに向けた会則案と趣意書案というのをつくって、今、それをチェックしようとしているというところです。

それで、設立総会が恐らく11月の14日ぐらいの週になるのかなというふうな歩みになっています。もともとは、この秋イベントに対して間に合わせたいというふうに思っていたんですけども、それがちょっとミートせず大変申し訳ございません。私の不徳といたすところでございます。一方で、村井さん、タスクフォースの会長となる村井さんに関しましては、スケジュール合わせていただいて、当日、オンラインですけどもお見えになりますので、村井さんからそういったものを準備中であるというふうなことは、いい感じで言うただくように私のほうからお願いをしていこうというふうに思っております。なので、もうすぐ立ちあがりまして、これからIGF2023に向けて進みますよというというメッセージじゃなくても、もうすぐできますよというふうなことを申し上げることになるんですけども、そのレベルになるということですが、村井さんは確保できた。これはいいことだと思います。

あと、もう1点なんですけども、少しこれ、活発化チームとしてお考えいただきたいことがありまして、これ、何かといいますと、このタスクフォースという形で進めていこうとしているんですけども、活発化チームがこのタスクフォースの設立発起人の一人になるべきじゃないかというふうな考え方が、今、検討の中でちょっと出てきております。なので、これから、11月14日の週という、そういうふうに首尾よくいくかというのはまた別の問題としてありますけども、今後、2週間、3週間ぐらいの中で、設立発起人として加入すべきかというのを御検討いただきたいなと思います。ちょっと今、今々、会則案と趣意書案をお見せして、これですよというふうにしてディスカッションしたほうがいいのかもしれないですね。であれば、私のほうから投影してお出ししようかとも思うんですが、そういったことはいかがでしょうかということをお考えいただきたいというふうに思っております。

取りあえず、以上です。ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。

まず、皆さんの御質問とか御意見ございますか。本田さん、手が挙がりました。よろしくお願ひします。

【本田】 すみません。協議会については、まず確認しておきたいんですが、将来のことは別として、IGF2023の日本開催に伴う諸課題の整理とか、実際の実行委員会組織みたいな、そういうふうに理解をしているんですが、おおむねそれは間違いないんでしょうか。

【前村】 実行委員会というほどやることはないというのか、ICANN64のローカルホスト委員会というのが実行委員会みたいなもんだったんですけど、これ、やることたくさんあったんですよ。どうやってお客さんをもてなそうかとかということ自分で考えるというのが実行委員会というものなんですけども、こちらのほうは、そのホスト自体は日本国政府なので、その政府に対してこういうふうに言っていこうよとか、ローカルの裁量に任されている部分をこういうふうにしていこうよということをおアドバイスするというふうなことがメインですね。ちょっとだけ、だから、雰囲気が変わる、違うかもしれません、本田さんがお考えのものとは。

【本田】 そうでしたね。その諮問みたいな、そういうものを総務大臣側に対して言うということ。

【前村】 そうですね。

【本田】 多分、この件は前回もたしか確認したと思うんですが、いわゆるWIDEプロジェクトなり、経団連なり、そういうビジネス部分、入っているんだけど、ほかのセクターというか、は入っているんですかという話をしたと思うんですけど。

【前村】 設立発起の段階ではちょっと入れることを考え始めると、また同じプロセスを繰り返すことになるんですよ。なので、少し大変、それはできないという判断して、設立発起人にはいないですけども、これからお声がけするところにはいろんなセクターというのか、ステークホルダーの皆さんに御参画いただけるようにしたいと思います。

【本田】 そうですよ。だから、発起人自体には構成はしてないけれどもというところ。

【前村】 そうです。

【本田】 私がこんなことをお聞きした背景は、活発化チームとして、私も含めた皆さん入っていくのがいいのか、ちょっとそこは別に活発化チームに入らなくても、いわゆるネット市民というか、個人も含めた各セクターがそこへ入り込んでいく、入り込んでいくと言うとちょっと語弊があるのかな、関与できる、側面的にせよ関与できる余地があるのか。いや、そんなことはなくて、発起人の何かというか、一つの構成の中に活発化チーム丸ごと入っておいたほうがいろいろ合理的というか、利点があるのかどうかというところをちょっとお聞きしたいと思います。

【前村】 タスクフォースに関与できるかできないかというのは、加入していただければ関与できるということなので、それは実質上の差はあまりないんじゃないのかなと思うんです。なので、設立発起人に名前を載せるというのは、かなり象徴的というのか、意味合いとして、より主体的にこれをやるんだということを示すというふうな意味合いになろうかと思えます。なので、今、そうですね、少し小さな集団という、総務省さんとも相談しながら、誰にお話をしていきますかねとって、今の四、五団体というのができているんですけども、同じように活発化チームの皆さんにお声がけするというのは、これは企てている人間

からするととても自然というのか、あるべきことかなというふうに思いますので、あとは、活発化チームのほうでそれが適切だと思えば、私も活発化チームの一員ですが、皆さんがそれで気持ちよく設立段階からの参画ということですのでよろしいと思うのであれば、そういうふうにやっていただければいいのかなというふうに思うんですけど。お答えになっていきますかね、本田さん、すみません。

【本田】 おおむね理解ができました。なので、厳密なことを言うと、活発化チームには総務省の皆さんも入っていたり、一部協議会の発起人メンバーとも重複する方々もいるわけなので、そのところが別に、活発化チームとしてももちろんやって、継続して活発化をしていくという、活発化活動をしていくというのは当然なので、別に入ることはやぶさかではないと思いますが、構成の重複とかということもありますので、慎重に皆さん、活発化チームにいらっしゃる皆さんのお考えを聞いていただいたほうがいいかなというふうに観点を持ちました。

【前村】 ありがとうございます。皆さんの違和感みたいのがあるんだったらさらっておかなきゃいけないでしょうし、皆さんからの御意見をお待ちします。

【加藤】 ありがとうございます。

ほかの方、御意見いかがでしょうか。御質問も含めて。

【上村】 上村です。2点あります。

【加藤】 上村さん。

【上村】 1点は、さっきお話しあったのか、聞き漏らしたのか、すみません、分からないんですけど、タスクフォースに名前を変えるというのはどういう意味なのかというのと、というのは、まずどういう意味なんですか。変えなくてもいいんじゃないかと思っただけなので。

【前村】 分かりました。説明はしたんですけど、常に言葉というのは足りないもので、協議会という名前がいいのかというそもそも論にちょっと一部でいったんですね。協議会というと、ちょっと皆さんの想起するイメージというものとそれぞれ違う、少しずつ違うんじゃないかと思うんですけども、協議をして何か決めていくというふうな団体であり、その協議というものの言葉の意味合いというのは、少しずつ違うような考え方があって、その中で調整をして、こういうふうなポジションを取ろうというふうなことを考えるのが協議会と言われるものなんじゃないかというふうなことを思う人がまあまあいたということで、それ以外に何かいいネーミングないかねということで、推進委員会でもいいんですけど、タスクフォースでもいいんですけども、タスクフォースというと割と短期的に、これ1年間、IGF2023までの1年間ですので、その1年間活動をするよというふうな意味合いとも合致するなというふうなことで、タスクフォースというものが、今、採用されたという感じですね。

具体的に言うと、誰かが、これ、いいんじゃないって言ったからとかいうことになるんですけども、これでお答えになっていますかね。

【上村】 後半の話はよく分かるんですけど、前半の協議会じゃないほうがいいんじゃないというのが、タスクフォースじゃないほうがいいんじゃないという疑問にもつながるのでちょっとなと思いつつ、定義の問題だと思うので、ちゃんとこういう場ですというのが定款的なものにあればいいような気がするんですけど、タスクフォース、え、タスクフォースなんだと思って聞いていました。

【前村】 そうですか。

【上村】 それ以上はありませんというか。

【前村】 分かりました。

【上村】 2つ目は、この活発化チームは入れないんじゃないかと思うんですけど、どうなんでしょう。お気持ちはありがたいし、この場に集う皆さんのエフォートを評価してくださっているし、評価すべきということだとも思うんですけど。

【前村】 そういうふうな意味合いだと思います。

【上村】 活発化チームって何だというのがやっぱりフワツとしているので、これからかちっとしたものをつくろうとしているところにフワツとしたものがメンバーとして入ると、全体がフワツとしたものになっちゃう気がするんですよ。例えば活発化チームって、メンバーシップははっきりしてないじゃないですか。だから、ほかのところはすごいがっちりとした組織なので、1個でもそういうフワツとしたのが入ると、全体がそこに倣えてフワツとしたものになっちゃうという心配があるんじゃないかと思うんですけど、そのためには入れないという選択肢もあれば、活発化チームなるものをもう少しがっちりしようという方法もあるという気はします。

ただ、もう一つ、ついでに思ったのは、協議会に入るために活発化チームをかちりしたものにする必要ってあったんだけど気はしています。その辺、今、私もはっきり答えがあるわけではないんですけど、ちょっとどうかと思いました。

以上です。

【前村】 上村さん、ありがとうございます。おっしゃったことはとてもよく理解できます。なるほどな、そういうふうな考え方もあるよなと思いました。

それで、私自身は活発化チームのメンバーであるという自覚もありますし、あって、フワツとしていると言えばフワツとはしているんですけども、確かにインクルーシブにやっているから誰でも入ってこれる状態になっているが、そこは、一応、チャーターというもので律している状態になっているし、代表者として、チェアである加藤さんという方もきちんといらっしゃるというふうな状態になっているというところで、今まで一番IGFというものを中心に捉えて活動してきた集団がここなので、そういう人がIGF2023に向けた活動にいるとい

うことは重要なというふうに思うと、私自身は違和感がなかったと、そういうふうな感じ
でありますので、参考までに申し述べました。

【加藤】 ありがとうございます。ほかの方、御意見いかがでしょうか。

西潟様、お願いします。

【西潟】 お疲れさまです。西潟です。

前村さん、いろいろありがとうございます。

提案なんですけど、タスクフォースのタイミングとの関係はあるんだと思うんですけど、
一度、このチームでタスクフォースの会則案を見ていただいて判断いただかないと、多分、
今の上村さんの御発言のコアなところには答えられない気がいたします。見ていただいた上
で個々人の御判断が入ってくる、そうした議論を活発化チームの中でやるべきだと私は考え
ております。

総務省としては、総務省はタスクフォースのオブザーバーになるので、活発化チームとは
立ち位置が異なってきます。私の立ち位置もそれぞれで変わり得る。総務省としてはその境
界線が引きやすいのです。活発化チームの方では、これまでIGFなりインターネットガバナ
ンスを引っ張ってこられた方も含め、最近入られた方も含め、一つチームということでは
うから、その中での御考えというものは、何らかのプロセスを経てまとめていただいた上
で、発起人という形に間に合えば一つの美しい形だし、2023年のイベントまでは時間があ
るので、いつ合流していただいても良いと考えます。

前村さんが言われたとおり、設立発起人だから何か一翻つくとか、そういう話では決して
ないはずですが。もちろん設立発起人に名前は残ります。それこそJapan IGFをつくったとき
のメンバーの方、今でも固有名詞で残っていらっしゃるのと一緒です。今回は組織としてで
すけど。いずれにしても、そういう議論を一度やっていただいたほうがいいのかなと、上村
さんの発言をお聞きして思いましたが、そこだけちょっと委ねたいと思います。

【加藤】 ありがとうございます。

ほかの方、いかがでしょうか。特に今、ございませんか。

もしチェアとして一言コメントさせていただけるとしたら、今、上村さんの御指摘、よく
分かるんですが、先ほどの前村さんからの御説明を伺っていて、幾つかのポイントがある
と思うんです。2023年に向けて、アドバイザー的にいろいろIGFの考えを伝えていくとい
うことがメインの、まず取りあえずこの設立の趣旨ということからすると、本田さんも言
われたように、活発化チームというのはまさにIGFを表しているマルチステークホルダー
で、JP NICさんやJAIPAさんや政府の方や皆さんも入っていらっしゃる。そういう方が入
っているというのは、そういう意味で、継続性からいってもすごく意味があるのかなとい
うふうには思います。

もっと言うと、それが一番自然な面もあって、そもそもこのことを、組織化とかという話の中で、前村さんを中心に活発化チームとして検討してきた中でも、活発化チームはこの協議会という、当時、協議会という名前と呼んでいたものができれば、それとうまく合流しながら、できれば協力しながらやっていくという趣旨で、常にこの活発化チームの会合の中で御報告を受けたり、一緒に検討するというをやってきたわけで、そういう意味で言うと、今回、IGFのタスクフォース、2023のタスクフォースができるということに参加するというのは、多分、今までのIGFの活発化チームの流れからすると自然なことなのかなという気はします。

ただ、先ほどの上村さんの言われたように、参加できないのか。私、まず参加できる、できないのところでも感じたのが、活発化チーム自身がフワッとしたものであると。これは任意団体という任意のグループであるということで、そういう御趣旨かなと思ったんですが、ただ、その点は、先ほどのタスクフォース自身も任意団体として取りあえずスタートすることであれば、もともと活発化チームはいずれは法人化したいという議論をずっと今年進めてきたわけですけども、そこに至らない段階で、こういう2023年を成功するための議論に加わるということであれば、別にこれは法的な分析でも何でもありませんけれども、今の活発化チームも十分、その任意団体に参加することには問題ないんじゃないかというふうに思います。

そういう意味で、時間が、11月14日の週に第1回のミーティングをやる御計画だということなわけですけども、活発化チームのミーティング自身は、今のままいくと、次回は11月まさに14日の月曜日の予定なんですけれども、今回の御提案を踏まえて、私はできれば活発化チームとして前向きに検討させていただいた上で、今日から2週間、3週間の間に、いろいろ御意見があれば伺うとして、メール上で伺うとして、11月14日の月曜日には最終的に、参加させていただくとしたら参加するということを決めるということで、時間的にはいかがでしょうか。それではちょっと難しいでしょうか。

本田さん、お願いします。

【本田】 私は、今の時点では、率直に協議会、もしくはタスクフォースに参加できるということはいいことかなというふうにプラスに捉えています。一つの懸念は、言ってしまうと、活発化チームには、一応、アジェンダとか縛りはあるものの、基本的には誰でも入ってこれて、抜けるとか、出ていくのもそんな、緩く辞めることもできるという感じですね。活発化チームとして入るときに、協議会、タスクフォースのほうに入るときに、言わば迂回のような形で緩い人が入ってきちゃっていいのかなというところが、その辺は大丈夫なのかなというところは上村さんの懸念とも重なるところがありますが、それでもいいということであればいいだろうし、いや、ちょっとそれだと困るということであれば、活発化チームの中で、個人参加とか、もしくは活発化チーム自体が協議会にオブザーバー参加とか、するということも1案かなというところで、ほかの方の抵抗感とか、逆に活発化チームの方の抵抗感というものがなければ、それほどでもないのかなと。ある程度、決を採った

中で入っていくことは自然かなと思いますが、逆に協議会、タスクフォース側から見たメンバーのかちっとした感じが必要なのかどうなのかというところは気になっているところですね。

【加藤】 ありがとうございます。

今のかちっとしたというイメージで言うと、前村さん、いかがなんでしょうかね。

【前村】 今の設立発起人の皆さんは、活発化チームがどういうふうなモードで何をやっているかということとはよく御存じなので、それでも、活発化チームという、国内IGF活動を今まで中心でやってきた人たちがいてくれたほうがいいんじゃないのかというのが、この設立発起人という少し象徴的なメンバーシップにもいていただいたほうがいいと思うところだと思いますので、そこはあまり気に、こちら、こちらというのか、設立発起人側からは気にしてないところだと思いますね。活発化チームの皆さんが、活発化チームとしての自意識で、そこに沿わないとかそぐわないというのはあるのかもしれないなと思いつつ、今日のお話を聞いています。

【加藤】 私の理解、今の前村さんの御説明では、このタスクフォースは基本的にはアドバイス機能ですよ。いろいろ意見を具申するという意味では、何も拘束的なことを言うとか、拘束するようなことをするというのではなくて、あくまでも情報提供するということですよ。

【前村】 そうです。IGFが一番知っていますからね。

【加藤】 もちろん前村さんもJPNICさんとしてよく御存じだし。

上村さん、お願いします。

【上村】 多分、私のかちっとしたというのは、下というかこう、参加する人をどうしようというよりは、多分、ここ、リーダーシップチームのレイヤーがはっきりあったほうがいいんじゃないかということの、プログラム委員会の準備をされていて思ったんです。ICANNなんかも、多分、ノンコマースユーザーってどこなんだって、それを外延的には定義してなくて、だけど、リーダーシップチームみたいに選ばれる人の層はかっちりしているということだと思うので、多分、そういうのに似た組織化というか、組織立てを、多分、このチームの中に入れなくていいかと思うんですよね。

多分、活発化チームでどうするんですかって問われた、どう考えているんですかということをお問われたときに、やっぱり幹事会というかリーダーシップチームがある程度動けるようになってないと、多分、今のままだと全く機能しないと思います。プログラム委員会だけでも相当大変で、それはまだ内輪のことだから、内輪というのは、自分たちがやりたいと思っている、やりたいと思ったのかな、活発化チームがやりたいと思っているイベントをすることで何とかなっていますけど、外と関わるということになると、やっぱり活発化チームで、少人数の理事というか、ボードというか、何か選ぶような仕組みにしないといけない

んじゃないかという気がします。ふと気がついてみれば、インターネットガバナンスの組織ってどこも似たような構造になっているのは、多分、そういうことなんじゃないですかね。出入り自由のコミュニティと意思決定の間をつなぐというという意味で。

ということで、今日の議題じゃないと思うんですけど、乗るんだったら、そういうことをちゃんと考えないと、多分、タスクフォースの求めに応えられなくなっちゃうんじゃないかという心配があります。以上です。

【前村】 ありがとうございます。

ちょっと私のほうからコメントすると、御懸念はそうだなと思います。それで、活発化チームの中の構造とかガバナンスというふうな観点で言うと、今のところはコンセンサスペースでやろうねとあって、あまり中を構造化しないようにしようねとあってやってきて、ちょっとそれだと動かないからチェアを設けましょうとあってチェアが設けられて、加藤さんにやっていただいているということなんですけど、そういったもの、今から構造化して、この1年間のために構造化するというのは少し手続として重いなと思うので、それはIGF2023が終わった後の運営体制の中で考えるべきなんじゃないのかなというふうに思います。

コメントは、元に戻って、タスクフォースに活発化チームとして入るか入らないかというのは気持ち悪さがあるという御指摘もよく、まずは認識いたしましたし、設立発起人からは活発化チームにいてもらうといいなと思っているというのは、それはそれで事実だということで、その辺で勘案していた形、結果に結論が出るのかなと思います。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。

本田さん、お願いします。

【本田】 すみません。もう一つ、ちょっと観点を加えておくと、もともとこの活発化チームのほうで社団法人をつくろうと、その発起人を集めようということをやっていたわけですけれども、ちょっとそれは頓挫したというところで、今回、この協議会というところで参加していくところのメリットは、逆に活発化チームからすれば、そういうビジネスとか実際の既存の団体との接点も持てるようになるというところもあるし、その後、どうなるという、2023の後どうなるということは未定だというような話でたしかお伺いした記憶がありますけれども、その将来に向けてどうしていくかというところの流れの足がかりにもなるかなという部分があるので、現状では活発化チーム自体の組織化もおぼつかないというか、特にそこまではできないにしても、より長い目線で見るときに、よりエンゲージメント、関わりを広げていく足がかりというか、きっかけにはなるのかなと。

仮に今のまま活発化チームが、いわゆる特に縛りのない任意団体というか、任意グループのままやっていったからとあって、それをずっと続けていくことが日本のIGFの真の活発化

にはつながりにくいのかなという、私の個人的な意見もあります。そういうところですかね。それが、今、お伝えしたいことです。

【加藤】 ありがとうございます。

ほかの方、いかがでしょうか。

この件は、引き続きメーリングリスト、活発化チームのメーリングリストで議論していただくとして。

前村さん、お願いします。

【前村】 一つ、これが一つ今の活発化チームの機構の難しさなんですけども、会則案と趣意書案を見ていただきたいんですよ。それで、見ていただく上では共有しなければならないのですが、共有すると、これ、パブリックに共有することになるんですね。今の、フルトランスペアレンシーでやっているというところの弊害というか。ちょっと今からこのミーティング、このチャットウインドウにURLを張れるように準備をしますので、それを、今日、御出席の方々はそれを見ていただいて、今日、御出席でない方々には、私なりに、リクエストしていただくと会則案のリンクをお出しするみたいな感じにさせていただきたいと思うんですけど、それで結構ですか。

それで結構ですかというような投げかけはちょっと難しいかなと思うので、そうさせていただきたいと思うんですけども、もしそれはまずいんじゃないかという御懸念があったら、今、伺いたいと思います。大丈夫そうだったらそうさせてください。

【加藤】 よろしいですか。

それでは、そういう前提で、まず前村さんからいただくということで。

【前村】 すみません。では、そのように準備します。

【加藤】 それで、先ほど申し上げたように、これが活発化チームの中の組織化、協会との関係の責任者である前村さんから御提案があったということで、私、前向きに検討させていただくということで、次回の活発化チームの場では最終決定をするということで進めたいと思います。

前村さん、時間的にこういうふう調整しろとかということがあればあれですけども、タイミング的にはそれで大丈夫ですかね。14日の月曜日のミーティングで最終決定ということであれば。

【前村】 大丈夫です。

【加藤】 その日にミーティング、第1回の会議でなければ、その週の火曜日以降であれば。

【前村】 十分にオンラインで、問題起きないと思いますけども、多分、大丈夫だと思います。それでやらせてください。ありがとうございます。

【加藤】 そういうことで、皆さん、忌憚ない御意見をお願いしたいと思います。

【前村】 ご意見があれば見させていただきます。ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。

この時点でいかがでしょうか。総務省の加藤さん、飯田さんは御参加になりましたですか。まだでしょうか。

【総務省加藤】 すみません、まだ、ちょっと6時頃になるとは聞いていたんですけども、まだちょっとこちらには。

【加藤】 分かりました。先ほど一番ポイントになる会場の話と、2023年の場所の話とブースの話を知っているのでもしおいでになれば付け加えていただくということで、今日のアジェンダは次に移させていただきたいと思います。

それで、ユースの件、これ、いつもずっと山崎さんをお願いしているんですけども、山崎さん、いかがでしょうか。何かアップデートいただくことございますでしょうか。

【山崎】 すみません、とにかくイベントにかかりきりでこちらは全く進捗が。

【加藤】 そうですね。

【山崎】 ですから、会議の特別セッションでユースについて募る予定とかって言っていたぐらいしか、ちょっと今のところできそうにないですね。

【加藤】 一応、リマインダーとして、前回までの資料で、こういうことをペンディングでやっているという、何かそういうことは意味がありますか。なければ。

【山崎】 あるとは思いますがね。とにかく一人でも多くの方に知っていただいて、やろうとか、私がこれについてお勉強の手伝いができるよとかいう方が現れてくれれば進められるとは思いますが。

【加藤】 山崎さんの力作で、いろいろ検討することについての資料を作っていたので、それを、もう1回、皆さんにも見ていただく価値があるかなと思ったんですけども、今、もう必要ないでしょうかね。

【山崎】 そうですね、ちょっと今から見せる準備ができてないです。

【加藤】 分かりました。

では、働きかけを考えるとということで、この議事録の追加のところ、ぜひ、もう一度、Todoについてリマインドを付け加えていただければと思います。

本田さん、お願いします。

【本田】 山崎さん、時間があれば、今、時間があれば少しお話ししてもいいかなと思うんですけど、その働きかけを考えるような話。していいかなというのは、こういうのはど

うですかという、ここで話しちゃったらどうでしょうかと思うんですが、少しお時間大丈夫ですか。

【加藤】 そういう意味でもリマインドをお願いしますという。

【山崎】 考えていなかったなので、ちょっとそういう御提案できないという状況です。

【本田】 単純にユースや、提案はいいとして、ユースで登録されている今度の参加者というのは何名かいるんですかね。調べていらっしゃるかどうかは別として。そういうところから、ユースを選んでる人だけにメールを送るとか、そんな感じで。

【山崎】 活発化チーム内で、学校と大学で教えていらっしゃる方と同じドメイン名の参加者が複数名いらっしゃいますので、多分、そのの学生さんではないかと想像しますので、10人ぐらいいらっしゃるようには見えました。

【本田】 あと、浜田さんなり、ほかのいわゆる大学とか、もしくは教育との接点のある方を巻き込んで、またゆっくり考えていけばいいのかなという気は、ゆっくりというか、そういう働きかけは小さくからやっていけばいいのかなというところですけど、それは、ユースはユースで、この全体会合ですごい、そんなに深掘りしなくても、ユースのメンバーをまず募って、その中でやっぱり出てこないことには、話が出てこないことには広がっていかないのかなという感想がありますけど。それだけです。

【加藤】 ありがとうございます。

上村さん、また手を挙げていらした。よろしく申し上げます。

【上村】 度々すみません。河内さんに伺いたいんですけど、河内さんしか、ほかに聞けそうな人がなくて。メインセッションの企画の中で、ユースに話をさせようとか、そういうアイデアとかが出るんじゃないかと思うんですけど、そういうのって、今回、何か御存じでいらっしゃいますか。もし出るんだったら、23にそういう場をつくって、そこにこのユースに手を挙げた若者を突っ込むとか、そういうことを考えたほうがいいんじゃないかと思ったんですけど、何かそれに関連するようなこと、お分かりでしょうか。

【河内】 すみません、私、あまりちゃんと、メインセッションの企画にちゃんとあまり関わってないので分からないんですけど、出ているところもあるんですかね。すみません、分からないです。申し訳ないです。

【上村】 分かりました。ユースに活躍の場があったほうが、多分、励みになると思ったので、例えば2023に青年の主張トラックをつくっておいて、そこに優先的に出られますよとかとすると励みになるかなと思ったのと、あと、日本の中の若者と話していてもしようがないので、海外のユース仲間とディスカッションできるとか、そういう場を23につくるべき、ような気がするんですよね。なので、ちょっとしばらく前から誰に言ったらそれが着地するのか気になっていたもので、ちょっと伺った次第です。

ありがとうございました。

【河内】 すみません。

【加藤】 今回の点ですけれども、例年、ユースは盛り上がりを見せているので、むしろ日本もやるよとって2023年に提案していけばいいんじゃないでしょうかね。APrIGFはかなりそこを継続的にやっているようなので、そういうものとうまく連携しながら提案していけば、上村先生の御指摘どおり場はつくれるのかなという気がしますけど、いかがでしょう。

【上村】 まずは、でっかい場が用意できるのかって、そこだけ考えていたんですけど。ちっちゃいことはいろいろやりようがあるのかもしれない。

いずれにしても今日のメインの話題ではないので、様子が分かっただけで十分です。ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。

それでは、ユースの件はこれでよろしいでしょうか。山崎さん、秋イベント、今週のことでもう手いっぱいだと思いますが、その後、引き続き、もう一度、皆さんのリマインドのためにも、こういうことをやってほしいということの御報告をお願いします。

ということで、次のアジェンダに移らせていただきたいと思います。次のアジェンダ項目として、チーム会合の運営についてということなんですけれども、これ、今回、少し先ほどのタスクフォースとの関係でも話が出ましたが、チーム会合の運営自身をどうしていくかというのは常に検討事項ではあるんですけれども、何か具体的な御意見とかアジェンダとか、今、ございますか。今回も、項目だけは挙げております。

本田さん、お願いします。

【本田】 すみません、何か考えを私なりにまとめた資料を作りますと約束をしたきりで、申し訳ありません。それは準備をさせていただきたいと、継続して準備をさせていただきたいと思います。

単純に、今、思ったことなんですけれども、ちょっと最近、参加者が固定化してきているとか、はっきり言って少なくなっているというのが一つ残念なところですね。その理由を私なりに思っていることは、やはりちょっとイベント準備というところと、もしくは組織かというところの二大タスクがあって、そのところの議論にちょっと終始し過ぎてしまったところがあるのではないかなと。本来、そのものの、IGFそのものの現状の動きの自由な形での報告とか、お互いの意見交換とか、あまりかちとしてない部分の、かちとってはいませんが、要は決まり切った議事録を取る部分というよりも、お互いのオープンディスカッションみたいな時間もやっぱり確保してはどうかなというところで、そこへ小規模にしたこういう報告ですね。要は、河内さんがいつも大体5分の枠で持ってきてくださっていますが、もうちょっと今日はしゃべることあるよということで15分とか、それで、その中で報告していただいたことに、それ、どうなんですか、ああですか、お互いに話すとか。

メーリングリストとかでやりますと、どうしても、ある意味、言葉の応酬になっちゃうときがありますので、お互い、この時間を共有しながら、この会合の中で自由な形で話をしていって、また、そこから新しいアイデアが出てくれば、ちょっとそのことを別のトピック、専門で考える会合、小会合を持ちましょうとか、ユースならユースでやろうとか、より分派していくと思うんですね。そういうような形は、一つの提案というか、理想じゃないのかなという部分があります。IGFそのものについての動きについて、現状をキャッチアップするとか、そういう部分の時間も取ってほしいというところです。

【加藤】 ありがとうございます。毎回、本田さんから、もう少しサブスタンスについての議題を加えていったほうがいいということ、御指摘いただいているので、ぜひ今度は、次回までに、具体的な案があれば、こういうタイミングでこういうふうなことをこうやってやっていくということがあれば、その御提案をお願いして、次回、活発化チーム会議で議論させていただきたいと思います。

ほかの方、それでよろしいでしょうか。

今日の主な議題はそれだけですけれども、何か加えて御意見、御質問等ある方、ございませんでしょうか。

もしなければ、今日のTodo確認ですけれども、秋イベントについては、このミーティングの直後にまたプログラム委員会の最後の調整ミーティングをやっていただくということで、活発化チームからは特に追加のコメントはなかったと思います。

それから、協議会についてですけれども、皆さんからの御報告もありますけれども、活発化チームのメーリングリストの中で参加、不参加ということを議論していただいて、最終的に次回、今、予定しているのは11月の14日月曜日ですけれども、その会議で発起人の一つのグループとして参加するかどうかを最終的に決めるということで、それまで活発な議論をお願いしたいということがTodoだと思っています。

ユースに関しては、先ほどの働きかけですけれども、山崎さん、一応、リマインドを兼ねて、資料をもう一度紹介していただいて、皆さん、それについて御意見があればお願いしますということですね。

それから、チーム会合の運営については、今申し上げたとおり、何か具体的な御提案があれば、本田さん、名指しであれですけれども、あれば御提案をお願いしたいということだと思います。

何かほかに、繰り返しになりますけれども。前村さん、お願いいたします。

【前村】 恐れ入ります。ちょっと確認をしたいというのか、秋イベントなんですけど、オープニングセッションのところを、村井さんは、多分、これ、上村さんに対する質問だと思うんですけど、村井さんは3時から3時30分まで時間取れていますので、その30分の

中で、「今、改めて問われるインターネットの自由」というタイトルで少し長めに話してくださいというふうな感じで依頼すればよろしいでしょうか。

【上村】 そうすると本当に30分話しちゃうと思うので、まずは、当初、御挨拶をいただきたいということをお願いをしていたので、挨拶的なものはいただきたいと思うんですね。それから、タスクフォースなのか、協議会なのか、その話についても。

【前村】 もちろんそこも話していただかなくちゃいけないですね。

【上村】 その辺りも話すことで、その上で、ところで村井先生は、今、改めて問われるインターネットの自由としてどういうことをお考えですかということを出題をして、時間切れになるまでお話になるんだったらそれも構わないですし、途中で早めに終わったら、少しディスカッションみたいなことができたらいいのではないかと思います。

【前村】 分かりました。そんな感じで、出題して何か話していただいて、それから村井さんも交えた30分ぐらいの議論があって、ちょっと俺、これで失礼するわとって中に消えていって行くみたいな、そんな感じのイメージですね。

【上村】 それでいかがでしょう。

【前村】 分かりました。では、それをお願いしておくようにします。ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。

それでは、これで本日の議題を全てカバーしたということで、引き続きプログラム委員会で残っていただく方はこのまま残っていただくということで、本日は割と早く終わりましたけれども、ありがとうございます。ぜひ盛大な秋イベントになるように、皆さん、よろしくお願ひしたいと思います。

それで、最後、今回は、一応、原則3週間置きということで、11月14日5時からということでもよろしくお願ひしたいと思います。

【前村】 山崎さん、ちなみに今の登録数ってどれくらいあるんですか。結構大きな数字ですよ。

【加藤】 20人、プラス16人って書いてありますね。

【前村】 そうですね。結構、皆さんのおかげさまをもちまして、たくさんの方々に寄っていただけるようなんで頑張りましょうね。ありがとうございます。

【加藤】 このDay 0については、現地参加、ほとんど、少ないんですか。

【上村】 オンラインだけです。

【加藤】 オンラインだけですよね。

【上村】 一切現地はありません。

【加藤】 そうですね。

それでは、どうもありがとうございました。プログラム委員会に御参加いただける方は、このまま残りください。

ありがとうございました。

— 了 —